《研究課題名》

地域在住高齢者における利き足の足趾把持力と転倒リスクの関連の検討

《研究対象者》

滋賀医科大学医学部附属病院精神科において実施した「高齢者におけるバランスパッドを用いた立位足底知覚トレーニングによる立位バランス機能改善効果の脳機能評価 - 近赤外分光による検討 - 」の研究にご協力頂いた方

研究協力のお願い

滋賀医科大学において今後、上記研究課題名で取得したデータを用いての高齢者の転倒リスクに関する研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医科大学で既に保有している情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報の使用について、直接ご説明して同意はいただかず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究に関するご質問は下記（４）の問い合わせ先へご連絡ください。

（１）研究の概要について

《研究課題名》

地域在住高齢者における利き足の足趾把持力と転倒リスクの関連の検討

《研究期間》

滋賀医科大学学長許可日～2024 年 3 月 31 日

《研究責任者》

滋賀医科大学　精神医学講座教授　尾関祐二

（２）研究の意義、目的について

《意義》

高齢者の転倒リスク要因の一つである下肢機能において、利き足または非利き足どちらの機能が高齢者の転倒と関連するかが明らかになれば、高齢者の転倒リスク軽減を目的とした運動指導につながる可能性がある。

《目的》

高齢者の転倒の要因に、下肢の筋力低下や感覚機能低下などの要因があります。しかし、下肢の筋力や感覚機能は、利き足と非利き足に分類されますが、下肢機能における利き足または非利き足どちらの機能が高齢者の転倒と関連するかについては明らかにされていません。今後、予定している研究は、高齢者の下肢機能を利き足と非利き足に分類して転倒リスクに及ぼす影響を調査することを目的としております。そのため、上記研究課題名で既に取得させて頂いたデータを用いて下肢機能を利き足と非利き足に分類して、高齢者の転倒リスクに関連するかを明らかにすることに利用させてもらいます。

（３）研究の方法について

《研究の内容》

　対象者から聴取した過去 1 年間の転倒の有無データから、対象者を転倒有り群と転倒無し群に分類する。転倒有り群と転倒無し群で、下肢筋力（大腿四頭筋筋力、足趾把持力)、足底体性感覚機能（二点識別覚)、認知機能（Mini Mental Statement Examination: MMSE)、年齢、性別などを比較する。

　転倒リスクに独立して影響する要因を調べるために、多重ロジスティック回帰分析を用いて転倒リスク要因を抽出する。従属変数は転倒有り無し、独立変数に年齢、性別、大腿四頭筋筋力、足趾把持力、二点識別覚、MMSE を投入する。

《利用する情報の項目》

　年齢、性別、身長、体重、Body Mass Index、利き足の同定、過去 1 年の転倒歴、認知機能検査（MMSE)、大腿四頭筋筋力、足趾把持力、二点識別覚

《試料・情報の管理について責任を有する者》

　精神医学講座　尾関祐二

（４）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学　精神医学講座　松野悟之

住所：520-2192　滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2291

メールアドレス：abahouse@belle.shiga-med.ac.jp